

インターネットフォーラムをもりあげよう

2004年5月17日

ILO-OSH インターネットフォーラム事務局

4月28日、ILO インターネットフォーラム「仕事における安全・健康文化」運営協議会（座長：小木和孝 元 ILO 労働条件環境局長）が東京都渋谷区内の UN ハウスではじめて開かれ、その目標や運営方法について話し合われました。

まずインターネットフォーラムの目標については、日本企業の在外活動も含め、日本の安全健康文化の事例・アイデアをたくさん集めること、日本の進んだ安全健康文化を海外に発信していくこと、日本人々の意識啓発、そして行動変化への機会とすることなどが話し合われました。

次に集めようとする「事例」や「アイデア」について、さまざまな点が話し合われました。まずそれらの範囲について、個別企業の職場文化だけでなく、そのプロモーター役として業界、災害防止団体が行う支援活動などあらゆるレベルの取組みを対象とすること、ジェンダー、リプロダクティブヘルス、メンタルヘルスや障害者、高齢者、若者の問題も含まれることをわかりやすく説明する必要があることが話し合われました。「事例」や「アイデア」の内容については、参加型の改善策のなかでヒント集や改善シートなどのちょっとしたツールがあると使いやすいので、これもあわせて紹介してほしいという指摘がありました。また、文字情報だけでなく、ビデオなど映像的なものがあると知識伝達にとどまらず、感情伝達を通じて行動変化を促す効果があるとの指摘もありました。また、「事例」や「アイデア」を提出したあとの質疑、意見交換などの「対話」については、回答が義務づけられているわけではありませんが、できるかぎり回答に協力いただき、参加者全員でこのフォーラムのもりあげてほしいとの要請がありました。なお、この「対話」はホームページ上で行うこととされていますが、相手の同意が得られた場合のホームページ外での対話の可能性についても話し合われました。

広報については、「事例」や「アイデア」を投稿することによるメリットを、ホームページ上での意見交換によるメリットや ILO 報告書への掲載によるメリットなど具体的に明示する必要が指摘されました。また、全国安全週間を利用した広報、働く普通の人々に伝わる広報のあり方なども話し合われました。

以上のほか、インターネットフォーラムの7月以降の継続可能性、英語での情報提供可能性についても話し合われました。

つぎの ILO インターネットフォーラム「仕事における安全・健康文化」運営協議会は7月下旬に開かれる予定です。その際は一般からの参加も呼びかけて、フォーラムの結果を紹介し、話し合うこととしています。

(参考)

IL0 インターネット・フォーラム 「仕事における安全・健康文化」運営協議会要綱

(目的)

1. IL0 駐日事務所は、2004 年の IL0 「仕事における安全と健康のための世界の日」を記念して同事務所において実施する IL0 インターネット・フォーラム「仕事における安全・健康文化」(以下「インターネット・フォーラム」という。)の積極的かつ円滑な運営のため、その実施方法(実践事例等の分類、論点整理、マナー基準など)、広報や参加促進の方法等を協議する IL0 インターネット・フォーラム「仕事における安全・健康文化」運営協議会(以下「運営協議会」という。)を開催する。

(運営協議会の構成)

2. (1) 運営協議会は、産業安全保健またはこれに関連する諸問題について優れた識見を有する者により構成する。また、必要なときは、インターネット・フォーラムの協賛・後援団体関係者の参加を招請する。
(2) 運営協議会に、座長 1 名を置く。
(3) 座長は、運営協議会の議事を掌理する。

(運営協議会の事務)

3. 運営協議会の事務は、産業安全保健専門家等のボランティアの協力を得て、IL0 駐日事務所が行う。

会員名簿(50音順)

岩崎美希(日本労働組合総連合会東京都連合会労働局常任)
川島孝徳(厚生労働省労働基準局安全衛生部国際室長)
小木和孝(労働科学研究所主管研究員/元 IL0 労働条件環境局長) **座長**
後藤博俊(中央労働災害防止協会調査研究部審議役)
島津美由紀(臨床心理士、ソニー厚木健康開発センター)
庄司卓郎(産業医科大学産業保健学部第2環境管理学講座講師)
高橋信雄(JFE スチール(株)安全衛生部副部長/日本経団連人事労務管理委員会労働安全衛生部会委員)
高橋正也(産業医学総合研究所作業条件適応研究部主任研究官)
中桐孝郎(日本労働組合総連合会雇用労働局次長)
西田良子(家族計画国際協力財団(ジョイセフ)海外プロジェクト部長)
町田静治(IL0 本部労働安全衛生・環境国際重点計画)